研究成果報告書 科学研究費助成事業



平成 30 年 5 月 2 8 日現在

機関番号: 14301

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2015~2017

課題番号: 15K09138

研究課題名(和文)心不全におけるBNP前駆体の血中濃度増加の分子機序の解明と臨床応用

研究課題名(英文) Elucidation of the molecular mechanism and clinical application of increased plasma level of BNP precursor in patients with heart failure

研究代表者

錦見 俊雄 (Nishikimi, Toshio)

京都大学・医学研究科・非常勤講師

研究者番号:80291946

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文): ヒトproBNP遺伝子をラット心筋細胞に遺伝子導入し、培養上清中のproBNP, total BNPを測定する事でプロセシングを正確に評価する系を構築した。同時に種々の変異体を作成し、7カ所の糖鎖結合部位のどの部位がプロセシングに関係するのかを評価した。切断部位に最も近いTh71までの距離と他の部位ではTh48が直接プロセシング抑制に関係することを示した。慢性心不全の重症例ではproBNP/total BNP比率が軽症例よりも高く、cGMP/BNP比は低かった。BNP値が35000を越える症例を経験し、その機序を明らかにし、macro-proBNP血症と命名し世界で初めて報告した。

研究成果の概要(英文): We introduced human proBNP gene into rat cardiac myocytes and assessed the processing of proBNP by measuring proBNP and total BNP levels using our developed chemiluminescent immunoassay in the culture medium. We also produced proBNP mutant and assessed the effect of each glycosylation site on the proBNP processing. We found that Th71 and Th48 directly inhibit the processing of proBNP, and that other five glycosylation sites were indirectly associated with the inhibition of processing of proBNP. We also showed that the proBNP/total BNP ratio was higher and cGMP/total BNP ratio was lower in severe chronic heart failure compared with mild chronic heart failure. We experienced a case of heart failure whose BNP level was more than 35000pg/mL. We elucidated the mechanism of it and first reported it in the world as a case of macro-proBNP.

研究分野: 循環器内科学

キーワード: 心不全 BNP poBNP 前駆体 O型糖鎖修飾 プロセシング 心筋細胞 macro-proBNP

1.研究開始当初の背景

BNPは心不全における生化学マーカーとし て世界的に普及し、臨床の場で必須の検査に なっている。申請者も20年以上基礎的・臨床 的にBNP研究を行いその臨床的有用性と意義 について数十編の英文論文として発表してき た。BNPは有用な指標であるが問題点も存在 する。その1つは、血中にはBNPの前駆体で あるproBNPがBNPを上回るほど存在するこ とが最近判明し、現在のBNP測定系はproBNP を交差して測る事である。申請者は前々回の 科研費の支援を受け、この事実をゲル濾過法 と免疫アッセイ法を組み合わせて示し、心不 全患者ではproBNP/total BNP比率が広く分布 する事を示した。しかしこの方法は時間と労 力が多くかかる事ならびに、カラム処理後の 回収率がやや低いために(60~70%)、正確な 測定ができない可能性がある。そこで前回の 科研費の支援を受け、proBNPと従来のtotal BNP (=proBNP+BNP32)を抽出なしで測定す る免疫化学発光測定法を新規に開発し、これ を用いて健常者、心不全、腎不全における proBNP/total BNP比率を報告した。本申請研究 では、なぜ前駆体のproBNPがプロセシングさ れずに分泌されるのか、その機序と proBNP/total BNP比率測定の臨床的意義とを 合わせて検討した。

2.研究の目的

最近の研究でproBNPのN端部分に7カ所の型糖鎖修飾がなされ、この糖鎖修飾がproBNPのプロセシングに関係している可能性がCHO細胞やHEK細胞を用いた実験系で報告されている。しかしながら細胞により糖鎖修飾酵素の発現の種類は異なるために心筋細胞での検討が望まれる。申請者は、心筋細胞で糖鎖修飾が実際にproBNPのプロセシングに関与するのか否か、しているならば7カ所のどの部分が関与しているのかを、ラット心筋細胞培養系にヒトproBNP遺伝子を導入する系を構築し、培養上清中のproBNPとtotal BNPを我々

の開発したproBNPとtotal BNP測定系を用いて正確に測り、proBNP/total BNP比率を算出し、プロセシングの指標として用いて検討した。さらに慢性・急性心不全患者において血液を採取し、同じ測定系を用いて血液中のproBNPとtotal BNPを正確に測定し、proBNP/total BNP比率を算出し、この臨床的意義についても検討した。さらに血漿BNP濃度が3万5千pg/mLと著明に高い症例を経験し、そのメカニズムについても詳細に検討した。

3.研究の方法

- (1)野生型ならびに、糖鎖付着部位のアミノ酸Thr、SerをAlaに置き換えた種々の変異体ヒトproBNP遺伝子を、培養新生児ラット心筋細胞にレンチウイルスを用いて遺伝子導入し、その培養上清を我々の最近開発したproBNP、total BNP(=proBNP+BNP32)測定系を用いて正確に0.4pMレベルまで測定し、proBNP/total BNP比率を算出し、糖鎖付着部位のプロセシングに対する効果を評価した。
- (2)慢性心不全患者において冠静脈洞、静脈において血液採取を行い、上記の測定系でproBNP、total BNPを測定し、proBNP/total BNP比率を算出し、臨床データと比較検討した。
- (3)BNP値が3万5千と著明に高い症例を 経験し、その機序について生化学、分子生物 学的手法を用いて検討した。
- (4)急性心不全患者を対象に入院時から経時的にproBNP、total BNPを測定し、proBNP/total BNP比率を算出し、その意義について検討した。

4. 研究成果

(1)野生型ヒトproBNPをラット培養心筋細胞に遺伝子導入した時の培養上清中のproBNP/total BNP比率は約40%であった。ウイルスのタイターで培養上清のproBNP、total BNP濃度は変動するが、濃度にかかわらずproBNP/total BNP比率は約40%とほぼ一定であった。proBNPの切断部位に最も近いTh71を

Ala71に変えると、proBNP/total BNP比率は約 20%とプロセシングは増加した。そこで切断 部位から最も近傍の糖鎖付着部位までの距離 がプロセシングに関係するとの仮説をたて、 Th71をTh69、Th67と糖鎖の付着位置を切断部 位から遠ざけていくと、プロセシングは少し ずつだが有意に増加した。すなわち、切断部 位から最も近傍の糖鎖付着部位までの距離が プロセシングを決定することが示唆された。 また糖鎖付着部位全てをAlaで置換し、糖鎖付 着をなくすとproBNP/total BNP ratioは約3%~ とほぼ完全にproBNPはプロセシングされた。 すなわち、糖鎖の付着がプロセシングに関与 している事を初めて明らかにした。Th71を Ala71に変えても約20%は切断されない。すな わち他の場所に結合する糖鎖の付着場所も重 要である事を示している。そこで糖鎖付着部 位を1つだけにして他の6カ所をAlaにする 変異体を作製し、心筋細胞内に導入すると Th48とTh71のみがプロセシングを抑制した。 Th71とTh48の2カ所を同時にAlaに変えると ほぼ完全にproBNPはプロセシングされた。こ れらの事からTh71、Th48の2カ所がproBNP のプロセシング抑制に重要な働きを有する事 が明らかになった。

- (2)慢性心不全おいて冠静脈洞の血中のproBNP/total BNP ratioを測定すると平均値は約40%であり、心不全の重症度が増すとproBNP/total BNP ratioは高くなった。この事から心不全の重症度とともに糖鎖修飾が増えて、proBNPのプロセシングが抑制される事が示唆された。
- (3)BNP濃度が約35000pg/mLと著明に高い 症例を経験した。この患者のproBNP、total BNPを測定すると免疫活性の殆どがproBNP である事が確認できた。ゲル濾過法を行うと proBNPの免疫活性はIgG(約15kDa)よりも少 し大きい位置に溶出したことから、IgGが proBNPに付着していると想定し、ポリエチレ ングリコールによる沈殿法を行い上清を測定

するとproBNP濃度は1.3%と大きく低下した。 さらにprotein Gカラムを通すことでもproBNP 濃度は3.3%と低下した。これらの結果から BNP免疫活性著明高値の原因としてproBNP にIgGが結合したmacro-proBNP血症によるこ とが示唆された。これを証明するためにゲル 濾過法をpH3のelution bufferにして行うとIgG ははずれ、本来のproBNPの溶出位置にproBNP の免疫活性が移動した。これらの結果から proBNPにIgGが結合したmacro-proBNP血症と 診断し、世界で初めての症例として報告した。 (4)急性心不全の血漿proBNP、total BNPを 測定しproBNP/total BNP ratioを測定すると軽 症例ではproBNP/total BNP ratioは重症例より 低くなっていた。またcGMP/BNP比率も高値 であった。経時的変化では重症例では proBNP/total BNP ratioは変動しなかったが、軽 症例ではproBNP/total BNP ratioは徐々に増加 した。以上の結果から、急性心不全では proBNPのプロセシングが亢進し代償的に働 いている事が示唆された。

5 . 主な発表論文等 (研究代表者 研究分類:

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

Longitudinal changes in late systolic cardiac load and serum NT-proBNP levels in healthy

1. Tomiyama H, Nishikimi T, 他5名.

- middle-aged Japanese men. Am J Hypertens.
- 2015:28;452-458(査読有り)
- 2. <u>Nishikimi T, Nakagawa Y, Minamino N, Kuwahara K,</u> 他14名 Pro-B-type natriuretic peptide is cleaved intracellularly: impact of distance between O-glycosylation and cleavage sites. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2015:309;R639-R649 (査読有り)
- 3. Yamada C, <u>Kuwahara K, Nakagawa Y</u>,
 <u>Nishikimi T</u>, 他12 名 The renin-angiotensin system promotes arrhythmogenic substrates and

lethal arrhythmias in mice with non-ischaemic cardiomyopathy. Cardiovasc Res.2016:109;162-173 (査読有り)

- 4. Nakao K, <u>Kuwahara K</u>, <u>Nishikimi T</u>,

 <u>Nakagawa Y</u>, 他16名 Endothelium-derived

 C-type natriuretic peptide contributes to blood
- pressure regulation by maintaining endothelial integrity. Hypertension 2017:69;286-296(査読有じ))
- 5. <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Kuwahara K</u>, <u>Minamino N</u>, 他17名 MiR30-GALNT1/2 axis-mediated glycosylation contributes to the increased secretion of inactive human prohormone for brain natriuretic peptide (proBNP) from failing hearts. J Am Heart Assoc. 2017:5;e003601 (査読有り)
- 6. <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Kuwahara K</u>, 他7名 Macro-pro-B-type natriuretic peptide (proBNP) and hidden macro-N-terminal proBNP: Case report. Clinical Biochemistry. 2018: 52; 148-152 (査読有り)
- 7. <u>Nishikimi T</u>, <u>Nakagawa Y</u>. Adrenomedullin as a Biomarker of Heart Failure. Heart Fail Clin. 2018:14;49-55 (査読有り)
- 8. Takahama H, Nishikimi T, Nakagawa Y, Minamino N, 他11名 Ratio of pro-B-type natriuretic peptide (BNP) to total BNP is decreased in mild, but not severe, acute decompensated heart failure patients: A novel compensatory mechanism for acute heart failure. Int J Cardiol. 2018:259;165-171 (査読有り) 9. 錦見俊雄、中川靖章・心不全における血中 BNP分子型の多様性とその意義:proBNP、BNP1-32、関連分子種、nonglycosylated-NT-BNPについて、循環器内科2016:79;507-516 (査読無し)
- 10. 錦見俊雄. 分子標的薬と高血圧・循環器疾患. 腎臓内科・泌尿器科2016:4;82-89 (査読無し)

- [学会発表](計33件、主なものを記す)
- 1. <u>錦見俊雄、中川靖章、桑原宏一郎</u>: BNP up to date、第 79 回日本循環器学会総会(招待講演)、2015/4/24-26、大阪市
- 2. <u>中川靖章</u>、<u>錦見俊雄</u>、<u>桑原宏一郎</u>、他 5 名: Secretion and metabolism of proBNP in patients with heart failure、第 19 回日本心血管内分泌代 謝学会学術総会、2015/12/10-12、神戸市
- 3. <u>中川靖章</u>、<u>錦見俊雄</u>、<u>桑原宏一郎</u>、他5名: O 型糖鎖修飾を介したヒト BNP プロセシン グ調節に関与する糖転移酵素についての検 討、第 19 回日本心血管内分泌代謝学会学術 総会、2015/12/10-12、神戸市
- 4. <u>桑原宏一郎</u>、<u>中川靖章</u>、<u>錦見俊雄</u>、他 2 名: MiR30-GALNT axis-mediated regulation of glycosylation participates in the secretion of proBNP in failing hearts、第 32 回国際心臓学会 日本部会 (ISHR 2015)、2015/12/10-12、神戸 市
- 5. <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Kuwahara K</u>, <u>Minamino N</u>, 他 6 名: Mir-30-GALNTs axis-mediated regulation in glcosylation and secretion of proBNP in the failing heart. 第 80 回 日本循環器学会学術集会、2016/3/18-20、仙台市
- 6. Nakagawa Y, Nishikimi T, Kuwahara K、他 2 名: MiR30-GALNTs axis-mediated O-glycosylation plays an important role in the increased secretion of unprocessed pro-brain natriuretic peptide by failing heart、Keystone symposia、2016/4/3-7、Snowbird, Utah, USA
- 7. 中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎、南野直 人、他8名: miR30-GALNT 経路による〇型 糖鎖修飾を介した BNP プロセシング調節が 病的心筋からの proBNP 分泌亢進に寄与する、 第53回日本臨床分子医学会学術集会、 2016/4/15-16、東京
- 8. <u>中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎、南野直</u> 人、他5名: *O*型糖転移酵素 GALNT の BNP プロセシング調節への関与、第 89 回日本内

- 分泌学会学術総会、2016/4/21-23、京都市 9. <u>Kuwahara K</u>, <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Minamino N</u>、他 3 名: MiR30-GALNT1/2 axis-mediated glycosylation at threonine 48 and 71 plays an essential role in the increased secretion of unprocessed pro-brain natriuretic peptide by failing hearts、Heart Failure 2016、2016/5/21-24、Florence, Italy
- 10. 中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎、南野 直人、他 9 名:miR30-GALNT 経路による O 型糖鎖修飾調節を介した病的心からの proBNP 分泌亢進機序、他 9 名:第 2 回国際 心血管薬物療法学会日本部会(J-ICPS)、 2016/6/25-26、徳島市
- 11. <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Kuwahara K</u>、他 5 名: Unprocessed proBNP secretion is regulated by MiR30-GALNTs axis dependent O-glycosylation in the pathological myocardium. AHA BCVS2016、2016/7/18-21、Phoenix, Arizona, USA
- 12. <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Kuwahara K</u>、他 9 名 . MiR30-GALNT1/2 axis-mediated O-glycosylation plays a critical role in the processing and secretion of pro-brain natriuretic peptide by failing myocardium. ESC2016/8/27-31、Rome, Italy
- 13. Nishikimi T, Nakagawa Y, Kuwahara K、他 4 名: Endogenous plasma NT-BNP is glycosylated and undetectable with the current NT-BNP assay system、 The 26th Scientific meeting of the International Society of Hypertension、2016/9/24-29、Seoul、Korea 14. Kuwahara K, Nakagawa Y, Nishikimi T, Minamino N、他 6 名: MiR30-GALNT1/2 axis-mediatede glycosylation regulates the increase in inactive human pro-BNP secretion from failing heart. The 26th Scientific meeting of the International Society of Hypertension、2016/9/24-29、Seoul、Korea
- 15. Takahama H, Nishikimi T, Nakagawa Y,

- Minamino N、他 9 名:Relationships of B-Type Natriuretic Peptides (BNP) Measured by Conventional Assay with proBNP(1-108) and N-Terminal proBNP(1-76) in Heart Failure Patients.第 2 0 回日本心不全学会、2016/10/6-8、札幌市
- 16. Nakagawa Y, Nishikimi T, Kuwahara K, Minamino N、他 6 名: Secretion of proBNP is regulated by MiR30-GALNTs axis dependent O-linked glycosylation in the pathological myocardium. AHA Scientific Session 2016、2016/11/13-16、New Orleans, Louisiana, USA 17. Takashio S, Nishikimi T, Nakagawa Y, Minamino N、他 9 名:Determining Factors and Prognostic Value of Plasma γ- Atrial Natriuretic Peptide Ratio in Patients With Heart Failure. AHA Scientific Session 2016、2016/11/13-16、New Orleans, Louisiana, USA
- 18. <u>中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎、南野直人</u>、他 5 名: miR-30-GALNT1,2 経路による糖鎖修飾調節が病的心筋からの proBNP 分泌に関与する、第 26 回 日本循環薬理学会、2016/12/2、松本市
- 19. 中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎、南野 直人、他 5 名: 病的心筋における miR30-GALNT 経路による糖鎖修飾を介した proBNP 分泌制御、第20回日本心血管内分泌 代謝学会総会、2016/12/16-17、東京
- 20. <u>Nishikimi T, Nakagawa Y, Kuwahara K</u>、他 5 名: O-linked oligosaccharide atachment underestimates N-terminal proBNP(NT-proBNP) levels in heart failure (HF) and chronic renal failure (CRF) on hemodyalysis (HD)、The81st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Sciety、2017/3/17-19、金沢市
- 21. <u>Nishikimi T, Nakagawa Y, Kuwahara K</u>、他 5 名: O-linked oligosaccharaide attachment underestimates N-treminal proBNP-76 (NT-proBNP) levels in heart failure(HF) and chronic renal failure (CRF) on hemodialysis

(HD). ESC Congress 2017 , 2017/8/26-30, Barcelona. Spain

22. <u>Nakagawa Y</u>, <u>Nishikimi T</u>, <u>Kuwahara K</u>、他 7 名: A case of Macro-pro-B-Type Natriuretic Peptide (proBNP)、第 21 回日本心不全学会学 術集会 2017/10/12-14、秋田市

23. Takahama H, <u>Nishikimi T</u>, <u>Nakagawa Y</u>, <u>Minamino N</u>, 他 11 名: Impact of continuous reduction in B-type natriuretic peptide bioactivity during hospitalization in patients with advanced heart failure、AHA Scientific Session 2017、2017/11/12-14、Anaheim, California, USA

24. Takahama H, <u>Nishikimi T</u>, <u>Nakagawa Y</u>, <u>Minamino N</u>, 他 9 名: Molar ratio of N-terminal fragment of pro-B-type natriuretic peptide(BNP) to proBNP predicts occurrence of acute kidney injury in patients with acute heart failure. AHA Scientific Session 2017, 2017/11/12-14, Anaheim, California, USA

25. 中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎、他 8 名:マクロ proBNP 血症の一例、第 21 回心血管内分泌代謝学会、2017/12/8-10、大阪市26. Takahama H, Nishikimi T, Nakagawa Y, Minamino N、他 11 名: Association of ratio of proBNP to total BNP with heart failure severity: A novel compensatory mechanism for acute heart failure. 第 82 回日本循環器学会学術集会、2018/3/23-25、大阪市

27. Takahama H, <u>Nishikimi T</u>, <u>Nakagawa Y</u>, <u>Minamino N</u>, 他 12 名: ProBNP ratio to total BNP predicts future cardiac reverse remodeling in acute heart failure patients with reduced ejection fraction. 第 82 回日本循環器学会学術集会、2018/3/23-25、大阪市

28. <u>中川靖章、錦見俊雄、桑原宏一郎</u>、他 8 名: Possibility of proBNP measurement as a new evaluation method for heart disease. 第 82 回日 本循環器学会学術集会、2018/3/23-25、大阪市

[図書](計1件)

Nishikimi T, Kuwahara K, Nakagawa Y, 他 2 名: Chapter 2, ADRENOMEDULLIN, Endocrinology of the Heart in Health and Disease: Integrated, Cellular, and Molecular Endocrinology of the Heart, Editors: Jonathan Schisler, Charles Lang, Monte Willis, Page 41-58, Academic Press, 1st Edition, 2016

〔産業財産権〕 特になし

【その他】 ホームページ等 http://kyoto-u-cardio.jp/kisokenkyu/cat236/

6.研究組織

(1)研究代表者

錦見俊雄 (Nishikimi Toshio)

京都大学医学部付属病院•循環器内科•非常勤 講師

研究者番号:80291946

(2)研究分担者

桑原宏一郎 (Kuwahara Koichiro)

信州大学医学部•循環器内科•教授

研究者番号: 30402887

中川靖章(Nakagawa Yasuaki) 京都大学医学部付属病院•循環器内科 •助教

研究者番号:70452357

(3)連携研究者

南野直人 (Minamino Naoto)

国立循環器病研究センター・オミックスセ

ンター・センター長

研究者番号:50124839